

二〇一九年度 教育学部 帰国生入試 問題用紙

国語国文学科

「小論文」

受験番号				
氏名				

課題 次の文章は、石田梅岩『齊家論』の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。

伏て 惟に、御代の泰平目出度治る事、上は貴く下は賤く、尊卑の位まししく、有がたくも孝を鬼神に致、飲食・衣服・宮室の類は薄くなし、儉を用ひたまひ、恵みを万邦に垂んと、御力を尽し玉ふ。至へば徳光輝へば普くあらはれ、すゑが末まで安穩に、照し玉はぬ里もなし。実に徒然卿にも、「世を治る道は、儉約を本とす」といへり。蓋 儉約と云事、世に多く誤り吝き事と心得たる人あり。左にはあらず。儉約は財宝を節く用ひ、我分限に應じ、過不及なく、物の費捨る事をいとひ、時にあたり法にかなふやうに用ゆる事成べし。それ天下安穩に治り、有がたく忝事をあげていはず、財宝は数千里のあなたより、数千里のこなたへ取返し、舟路・陸路・海賊・山賊の患ひも知らず。近くは閭巷の区々まで、我家へに安居して、士農工商をのれへが業に心をいれるれば、何の不由なきやうにとの 御仁政、上は申も恐れあり。それへ所々に司位にましへて、日々夜々に怠らず、是を治めたまはり、又家業の隙ある折へは、月花のたのしみも心にまかせ、且 志あれば、聖人の道を学び、貧富ともに天命なれば、此身このまゝにて足ることの教をきく。此 ③ 国恩の大なる事天地のごとくにして、中へ筆にも尽すまじ。下として無道放逸をなし、上を犯し我分限を知らず身をおごり、人のいたみをしらざるは、悲き事かな。さある人は、天罰のかるゝ事有まじ。今誠に目覚る心地して、 国恩をあふぎ奉り先非を悔ぬ。これ教を受ける益ならんか。扱此 御高恩いかにして報じ奉るべきや。明には知らねども、我身をおさめ、上を犯すことなきやうに慎み、父子・夫婦・親類・縁者、家の小者に至るまで、たがひに睦しく打和らぎ、吝きことなく儉約を守り、一人の小者、又は出入従ふ者をあはれみ助けたき志なり。これまでも、一家親み又人を恵むこと、元来きらふにはあらねども、第一自身のおごりつよく、費おほきゆへ、人を恵む仁愛の心も外に成行ぬ。親き親類の疎に成もかの奢ゆへ、一家の出会いも物毎造作に、料理などもおもくなり、度々の出会いもなく遠々敷成ぬ。これを以てみれば、奢は不仁の本となる。

問一 傍線部①「儉約と云事、世に多く誤り吝き事と心得たる人あり」について、「儉約」と「吝き事」とはどのように相違すると筆者は考えているのか、述べよ。

問二 傍線部②「我分限を知らず身をおごり、人のいたみをしらざる」について、このような現代の例をあげ、あなたの考えを述べよ。

【注意】解答はすべて解答用紙に記入してください。解答には「問一」「問二」と問題番号を記入してから、続けて書いてください。解答用紙は、裏面も使用できません。

二〇一九年度 教育学部 帰国生入試 解答用紙

国語国文学科
「小論文」

受験番号				
氏名				

採点欄

採点欄

No. /

裏面使用可

ここから記入すること ←

ここから左には記入しないこと